

カーボンニュートラルに向けた世界的な動きが加速している。日本も2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向け動きだした。ESG、SDGsなどを含め環境を取り巻く状況がここ数年で急激に変化し、日本企業はさまざまな対応を求められている。こうしたシフトは産業構造の変革を促し、企業単位で見れば事業体制を見直す好機となりうる。実際、創業間もない企業と地方企業がタイアップして果敢に海外事業にチャレンジしたり、異業種企業が再生可能エネルギー事業に参入したりするなど変化はさまざま。環境意識の高まり、事業会社にとってのある意味での制約が、逆に新たな展開を生み、事業多角化、ひいてはサプライチェーンの見直しにまで及び始めている。ITメジャーはサプライチェーン全体での脱炭素化や再エネ100%の活用を掲げ、納入業者の選別が進む。

こうしたシフトに柔軟に対応した企業は、利益を得て事業活動を継続でき、企業の社会性・公共性やイメージの向上、ステークホルダーからの評価を得られ繁栄の礎を構築できる。ここ3～5年程度は脱炭素に向けた第一ステージとして大事な局面といえるだろう。頭では理解していても、攻めの具現化は難しい。

他方で、新規の投資や事業参入、サプライチェーン見直しなどのシフトには、社内管理体制の整備・見直しなど、守りの側面もはらむ。より一層、リスクコントロールやグローバルガバナンスが求められよう。JOI会員には法務、税務、グローバルガバナンス、リスクコントロールなどのプロフェッショナルが多数在籍しており、彼らの知見を活用したセミナーや企業研修を企画しているので、われわれの多様なサービスをぜひ社内研修、新人研修などで活用頂きたい。

常務理事 田丸伸介

## 海外投融資

Vol.30 No.2 (通巻176号)  
2021年3月25日発行

発行  
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人  
日塔 貴昭  
〒102-0073  
東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル  
TEL. 03-5210-3311 (代)  
URL. www.joi.or.jp

制作協力  
(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



## 九段だより

### 日本の鉄道全線に乗るといふ人生 (前編)

この九段だより、私を知る人から「得意の鉄道のことは書かないんですか?」と指摘されることが何度かあった。色々理由はあるが読者諸氏にも多いはずの鉄道マニアの方々に気後れしていたというのが正直なところである。

しかし九段だよりのネタ不足は深刻である。そこで日本の鉄道路線(正確には旅客営業を行う鉄道、軌道の全線)を乗りつぶした私の半生を2回に分けて笑読頂こうと思う。

きっかけは1979年当時小学4年の私に父が宮脇俊三著「時刻表2万キロ」を買ってきたことである。国鉄全線約2万キロを乗りつぶすという異色の紀行文を私は夢中で読んだ。この本は当時話題を呼び、翌春に国鉄は「いい旅チャレンジ2万キロ」という乗りつぶし奨励のキャンペーンを開始した。私もすぐ飛びつき、家から近い南武線と横浜線から乗りつぶし人生が始まった。それから「完乗熱」は高まる一方で、年に数回は関東の路線を日帰り巡ったほか、小学6年の夏には一人で夜行列車とユースホテルを使って東北地方のローカル線巡りを敢行した。今にして思えば親は小学生の私をよく一人旅に出してくれたと思う。

他方、この時期から全国で赤字ローカル線廃止の動きが加速していた。中高時代を通じて長期休暇には乗りつぶしの旅に出掛けたが、廃止に近い北海道などの辺境の路線を優先的に乗るようにしていた。完乗記録を急ぐよりも、失われる鉄道を記憶に刻むことが旅の動機になっていった。そのためあって国鉄がJRとなった高卒時(1988年頃)の

達成度は全体の約半分程度にすぎなかった。

さらに大学に入ると「完乗熱」は急に冷めていった。当時はバブル景気の只中、差別的ニュアンスを含むオタクという言葉が流行り、特に鉄道、アイドル、アニメは3大オタク趣味として世の迫害を受けるようになっていた。このころの私は部屋では隠れキリシタンのように時刻表を眺め、外では「フツの大学生」としてデートやドライブに勤しむ日々を送るようになっていた。

「完乗熱」が再燃するのは就職・結婚を経た90年代半ばからである。きっかけはよく覚えていないが結婚直後、私は九州へ乗りつぶしの旅に出掛けた。妻も誘ったはずだが、観光もせずローカル線に朝から晩まで乗り続ける酔狂な旅に付き合ってくれることはなかった。爾来、私は今でも一人旅に出掛ける。他人からは「よくそんなことが許されますね」と羨みを込めて言われるが、最初の時点で「そういう人」と認識させることが大事である。

何事も最初が肝心である。(続く)

専務理事 日塔 貴昭



宮脇俊三(2003年没)の墓(戒名: 鉄道院周遊俊妙居士)